

**災害を教訓に防災意識と連携を高める**

豪雨被災地で防災訓練  
昨年7月の豪雨で5人が土砂崩れに巻き込まれ1人が犠牲になった上弁城地区で、12月6日に防災訓練が行われました。災害のつめ跡が生々しく残る現場に集まった田川署員や県警機動隊員、町職員や消防団員が土砂崩れを想定して訓練。地元住民らが見守る中、警報の発令や避難誘導、救出などを互いに連携を取りながら速やかに対処していました。



1 倒壊家屋での機動隊員の作業を見守る福智町消防団第7分団・全分団幹部。

**桜のピンチに50人のボランティア**

豪雨被害による虎尾桜周辺復旧作業  
町のシンボルとして多くの人に愛される「虎尾桜」。昨年7月の豪雨で周辺は荒れ、このままだと桜の延命に影響を及ぼすことが心配されていました。11月29日「虎尾桜を心配する世話人会」の呼びかけに集まった町内外からの参加者が、持参したスコップなどを手に周辺整備に汗を流しました。約4時間かけた作業で、流されていた看板やベンチも設置され、ふさがっていた登山道も人が通れるようになりました。



←チェーンソーで切った倒木を運ぶ参加者。桜を支えているワイヤも掛け替えられました。

↓ 現役時代の体験談を交えながら、会場に熱いメッセージを送った若菜嘉晴氏。



**野球をとおした夢づくりを語る**

福智町PTA 連合会教育講演会  
元プロ野球選手で現在は解説者として活躍中の若菜嘉晴氏を招き、11月28日に地域交流センターで「子どもたちに夢を！～野球を通した夢づくり、人づくり～」と題した教育講演会が開かれました。城島健司選手など一流選手を育てた経験から、厳しい現実立ち向かうための強い思いや努力などが力強く語られ、訪れた220人の胸に響いたようです。

↓ 「ねえ見て、今から飾るよ」門松の前で絵馬を手にして、大喜びの園児達。



**巨大門松に願いを込めて**

中央保育所園児が絵馬を奉納  
中央保育所の年長児24人が、田川市の風光八幡宮の高さ世界一をうたう22段重ね高さ19.5mの門松に、全園児107人分の絵馬を奉納しました。12月14日に「ウルトラマンになりたい」「お友だちと仲良く遊べますように」などと書かれた絵馬を手にした園児たちは「こんな大きいのに飾ったら願いがかなうそう」と目を輝かせながら門松を見上げていました。

↓ 福智町出身の河村光陽の3曲をはじめ12か国の名曲を演奏後、会場全体の合唱で締めくくりました。



**音楽世界一周の旅  
優美な生演奏に酔いしれて**

三井住友海上文化財団派遣コンサートが、12月4日に地域交流センターで開かれました。NHK交響楽団の永峰高志さん（ヴァイオリン）と菅原潤さん（フルート）、日本のトップアーティストである五郎部俊朗さん（テノール）と三木香代さん（ピアノ）という豪華な顔ぶれでのコンサートとあって、10月から発売されたチケットはすぐに完売。370席が満席となった会場ではメヌエットやカンツォーネなど世界各国のムードを表した多彩な20曲が披露され、観客は吸い込まれるように聴き入っていました。

**園児の歓迎にさわかスマイル**

貴乃花親方がひらばら幼稚園を訪問  
12月3日、貴乃花親方がひらばら幼稚園を訪れました。親方の父親、故二子山親方時代から家族ぐるみのつきあいのある今宮正輔さん（「田川貴乃花部屋後援会」顧問）が勧進元の田川巡業が今年12月に田川市で行われる予定。親方は「父ゆかりの田川での巡業が楽しみ。そのときに、また皆さんとふれ合いたい」と園児たちに囲まれ笑顔を活かしていました。



1 園児からの花束に握手で応える親方。部屋期待の貴ノ岩力士も訪れました。

↓ 子どもたちから専門家に対して鋭い質問が飛んだ、パネルディスカッション。



**地域一丸で薬物問題に立ち向かおう**

福岡県薬物乱用防止地域対話集会  
県などが主催する「薬物乱用防止地域対話集会」が11月18日に同和対策研修センターで開催されました。集会には薬物乱用防止に携わる専門家や地域の小・中学生らが参加し、深刻な問題について意見交換。また、薬物乱用で視力を失った佐賀県立盲学校牟田征二教諭が「薬物で大きな代償を払わずに夢や目標に向かってほしい」と会場に呼びかけました。